

迫害の地は
逼迫の地は

キリスト者学生会

エステル記 聖書研究テキスト

目 次

1. 富と権力の集まる場所 <エステル記 1 : 1 ~ 2 2 >	p.3
2. 欲と思惑の渦巻く王宮 <エステル記 2 : 1 ~ 2 3 >	p.5
3. 因縁の記念日 <エステル記 3 : 1 ~ 1 5 >	p.8
4. 窮地の決断 <エステル記 4 : 1 ~ 1 7 >	p.10
5. わずかな進展 大きな布石 <エステル記 5 : 1 ~ 1 4 >	p.12
6. 遅すぎた褒美？ <エステル記 6 : 1 ~ 1 3 >	p.14
7. さまされた酔い <エステル記 6 : 1 4 ~ 7 : 1 0 >	p.16
8. 同胞との連携 <エステル記 8 : 1 ~ 1 7 >	p.18
9. 平和のために流された血 <エステル記 9 : 1 ~ 1 0 : 3 >	p.20

・はじめに・

あなたは「難民」と呼ばれる人々の生活に触れたことがありますか？

天災や戦禍、迫害のために、平穏な暮らしができなくなり、慣れ親しんだ故郷を離れなければいけなくなった人たち…。その歩みは、過酷なものです。彼らは、生活の基盤になるものを一から築き直さなくてははいけません。食料、住まい、仕事を見つけ出し、安定させなければ、自分も家族も生きてはいけないのです。

また、時には言語の習得を求められることもあるでしょう。異国の文化に合わせるために、これまでの慣習を捨て去る必要もあるかもしれません。現地の人たちから誤解されたり、いわれのない非難を受けたりすることもあるでしょう。

エステル記の主人公であるモルデカイやエステルは、「難民」ではありませんでした。彼らは自分の意志で祖国を離れたわけではなかったからです。彼らは「捕囚民」でした。二人の属すユダの民は、強制的に異国の地に連れてこられました。

そんな彼らの日常は、どのようなものだったのでしょうか？見知らぬ地で、彼らにどのような立場が与えられ、どんなふうに糧を得ていたのか…はっきりしたことはわかりません。

しかし、「難民」よりは楽な生活をしていたと決め付けることはできないでしょう。言語においても、文化においても、宗教においても、日々「被征服民」であることを自覚させられたはずです。そのように圧迫を感じる環境の中で、彼らはどのように生きたのか？また神様は、彼らのために何をしてくださったのか？聖書から学んでいきましょう。

富と権力の集まる場所

<エステル記 1：1～22>

はじめに

エステル記には、紀元前 486-465 年頃ペルシャ帝国を舞台にして起こった出来事が記されています。

そこから遡ること 100 年前(紀元前 586-587 年)、神の民ユダはバビロンに捕囚されてしまいました。彼らは、積み重ねてきた罪の報いを受けたのです。

数十年後(紀元前 539 年)、ペルシャ帝国クロス王の勅令により、一部のユダヤ人はエルサレムに帰還しましたが(エズ 1:1 参照)、その後 60 年経っても、多数のユダヤ人は帝国にとどまっていました。

今回は、御言葉をたよりに、彼らが身を置いていた社会について学んでいきたいと思います。

聖書研究

①アハシュエロス王

- 「アハシュエロス」(「クセルクセス」新共同訳聖書)は、「ホドからクシュまで…治めていた」(1)とあります。「ホド」は、インダス川の流れる地域のことで、今のパキスタンにあたります。「クシュ」は、エジプトの南にあった国で、現在の北スーダンの一部に位置していました。彼の領土が、どれほど広大なものであったか、地図で確認してみてください。
- アハシュエロスは、エジプトとバビロンで反乱を鎮圧した後、「シュシャンの城で、王座に着」いたと言われています(2)。「城」とは強固に要塞化された複合宮殿のことで、都市自体よりも高くなっており、約 37m にも達していたそうです。このことから、彼の権力について、どんなことを知ることができますか？
- アハシュエロスは、父ダリヨス 1 世から莫大な財産を受け継ぎました。その「輝かしい王国の富」を示すため(4)、彼は何を行いましたか？(3, 5) このためには、どれほどの人材と資材が必要だったと思いますか？ また、彼の「王宮の園の庭」(5)には、どのようなものが用意されていましたか？(6-7)
- ペルシア人には飲酒を強制する習慣があったと言われていますが、ここで王はどんな命令を出しましたか？(8) ここから王について、何を知ることができますか？

②王と法令

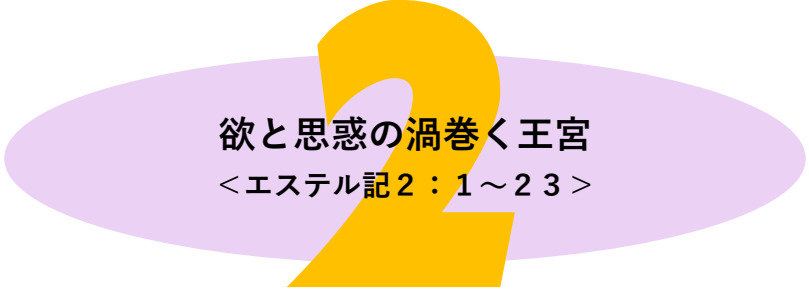
- 王にとって見過ごすことのできない出来事が起こった時に、彼はどんな行動に出ましたか？(13-15) ここから、王と側近と法令の関係について、どんなことを読み取ることができますか？(13, 21)

③女性の身分

- 王妃ワシュティに対する処遇について、メムカンはどのような提案をしましたか？(16-20) ここから、彼の抱いていた女性観について、どんなことを知ることができますか？

まとめ

- ①アハシュエロスは、広大な地域を治めた王であり、巨万の富を手にした支配者でした。彼の権力は、法令によって制御されていたとは言え、彼に楯突くことは許されませんでした。王妃でさえ、厳しい処罰を受けたのです。それでは、寄留の民であったユダヤ人にとって、このアハシュエロスは、どのような存在だったと思いますか？ また、彼は、現代のどんな人物に比べられるでしょうか？
- ②エステル記の1章は、詔勅が出されるところで終わります。この詔勅には、男性の身勝手な思惑が反映されています(18)。このようなものが発布された時からさほど遠くない時代に、「エステル」という女性が活躍する書物が記されました。この事実から、聖書の「女性観」について、どんなことを学ぶことができますか？



欲と思惑の渦巻く王宮 ＜エステル記 2：1～23＞

はじめに

- ①学校の先生やアルバイト先の上司に、不満や不信感を抱くことはありますか？それはどんな時ですか？
- ②先生や上司を信頼できない時、あなたはどんなふうに対応していますか？また、理想を言えば、どのように関わることができれば良いと思いますか？

聖書研究

- ①王妃選び―大規模な美人コンテスト―
- ワシュティの引き起こした事件に対する王の憤りはおさまりましたが(1)、ワシュティに対する処罰は変更することが出来ませんでした(1:19 参照)。その時に、「王に仕える若い者たち」は、王にどんな提案をしましたか？(2-4)
 - 王の命令に従って、シュシャンの城には、「多くのおとめたちが」連れてこられてきました(8)。その数は、400 人以上とも 1000 人以上とも言われています。その彼女たちのために、王たちはどんなものを用意しましたか？(12, 13) また、一人一人にこれらのものを提供するとなると、どれぐらいの経費が必要だったと思いますか？
 - 集められたおとめたちは、どのような過程、どれぐらいの期間を経て、王のもとに行くことが許されましたか？(12)
 - たった一夜のために、一年以上も準備をして臨んだおとめが、王に気に入られなかった場合、彼女たちはどうなってしまいましたか？(14) 彼女たちは、その後どんな生活を送ったと思いますか？
 - 王妃選びの過程から、王と王の仕え人の価値観、物の考え方について、どんなことを読み取ることができますか？

②エステル

- エステル記の主要登場人物の一人、エステルは「ハダサ」という本名を持っていました。これは、「ミルトス」という植物の名で、この植物は芳香のある葉や、白く美しい花で有名でした。また、ユダヤ人にとっては、ミルトスは平安や回復の象徴でした(イザ 41:19, 55:13, ゼカ 1:8 参照)。「ハダサ」の名付け親は、この名前にどんな思いを込めたのでしょうか？
- 2:7 には「彼女には父も母もいなかった」と記されています。異国の地で、両親のいない中、育ったエステルの幼少期はどのようなものだったと思いますか？
- エステルは、従兄弟のモルデカイにどのような態度を示し(10, 20)、王宮の中ではどのように振る舞いましたか？(15) この姿から、エステルの人格について、どんなことを見て取ることができますか？
- エステルは、何の身分も持たない人物でしたが、人々からの「好意」を得ました(9, 17)。この「好意」(2:17 では「恵み」)という言葉は、通常神と人との契約の愛について述べるために用いられるものでしたが、これをこの場面で使うことを通して、著者は暗に何を語ろうとしたのでしょうか？(ダニ 1:9 参照)

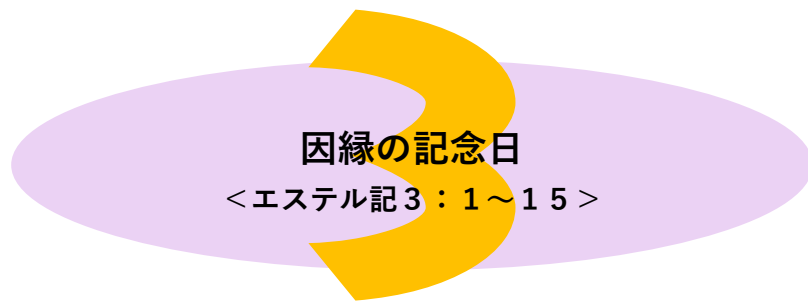
③モルデカイ

- もう一人の主人公、モルデカイはユダヤの高貴な出の者だったのではないかと、考えられています。その彼の名前は、バビロンの守護神名マルドゥクに由来するものでした。これは、おそらく捕らえられていった地でつけられた名前だと思われます(ダニ 1:7 参照)。この名で呼ばれることを、彼はどのように受け止めていたと思いますか？
- 養女エステルが、異教徒であり好色家であった王の王宮に集められた時、モルデカイはどんな思いを抱いたと思いますか？
- エステルが城に入った後、モルデカイは何を日課とするようになりましたか？(11) この時、彼はどんな気持ちだったのでしょうか？

- モルデカイは王宮に向かうエステルに、どんなことを命じていましたか？(10, 20) また、彼は何故このようなことを言ったのだと思いますか？
- モルデカイは、「王の門のところ」で、下級司法官あるいは判事の職についていたと考えられています。そして、彼はその職場で王の暗殺計画を耳にしました(21)。その時、彼はどのように行動しましたか？(22)

まとめ

- ①エステルにとってもモルデカイにとっても、ペルシャは決して住みやすい地ではなかったでしょう。その中で、彼らは上に立つ者に対して、どのような態度を示しましたか？その時に、彼らのうちには、どんな葛藤があったと思いますか？また、その彼らの姿を、神様はどのように見ておられたのでしょうか？(エレ 29:4-7, ロマ 13:1-5 参照)
- ②もし、ワシュティが王に逆らわなければ？もし、エステルが適齢期を過ぎていれば？もし、エステルが好意を受けることができなければ？もし、モルデカイが暗殺計画を耳にすることが無ければ？もし、暗殺計画を伝えるエステルがいなければ？… など、「たられば」をあげればキリがありませんが、モルデカイやエステルが経験したことを、一つ一つ心に留める時に、神様の業について、どんなことを学ぶことができますか？



はじめに

①不都合な出来事、困った事態が、立て続けに起こる経験をしたことがありますか？ その時、あなたはどんな気持ちになりましたか？ また、その状況を神様はどのように見ておられたと思いますか？

聖書研究

①2章の終わりでは、モルデカイがアハシュエロス王に、忠実に仕えたことが記されていました。「この出来事後」(1)、どんなことが起こりましたか？ 初めてこの書を読んだユダヤ人たちは、この展開にどんな感想を持ったと思いますか？

②王に次ぐ国内第二の地位に置かれたハマンは、数百年前にイスラエル人によって滅ぼされたアマレク人の末裔だったのではないかとされています(Ⅱサム 15:32-33 参照)。アマレク人は、出エジプト直後にイスラエル人に攻撃を仕掛けてきた民でしたので(出 17:8-16 参照)、両者は因縁深い関係にありました。このハマンが、要職に就くことを、モルデカイはどんな気持ちで受け止めたのでしょうか？

③王は、家来たちにハマンに対してひざをかがめてひれ伏すように命じました(2)。すでに高い地位にあったハマンのために、わざわざ何故このような命令を出す必要があったのでしょうか？ この事実から、王とハマンの関係、またハマンと他の家来について、どのようなことが考えられますか？

④他の人々がハマンにひれ伏す中、モルデカイだけは、ひれ伏そうとしませんでした(2)。それは、何故だと思いますか？ ペルシャの宮廷では自然な行為であった権威者にひれ伏すことを、彼が頑なに拒んだ理由は、何処にあったのでしょうか？(4)

⑤ハマンの周囲には、モルデカイの行動を告げ口する人々がいました(4)。彼らは、何を目的にこのようなことをしたのだと思いますか？

⑥モルデカイの態度についてハマンが報告を受けた時、彼は憤りに満たされました(5)。その怒りは、モルデカイの民族を駆逐することを思い立ったほどでした(6)。どうして彼はこれほどの思いを抱いたのでしょうか？

⑦煮え繰り返った心とは裏腹に、ハマンの行動は沈着冷静なものでした。彼は、自分の目的を達成するために、王にどんな提案をしましたか？(7-11) 彼の言動のどこまでが、真実のもので、どこまでが偽りのものですか？

⑧13 節には、アハシュエロス王の承認を受けた書簡の内容が記されています。王でさえも取り消すことのできないこの文書を、ユダヤ人やペルシャの人々は、どのように受け止めたと思いますか？(15 参照)

⑨書記が招集されたのは、第一の月の十三日でした(12)。これは、出エジプトを記念する過越の祭の時期でした(出 12:6, 12:24-27 参照)。ユダヤ人は、この祭をどのように過ごしたと思いますか？

まとめ

①彗星のごとく登場したアガグ人ハマンによって、物語は急展開を迎えます。全てがハマンの思惑通りに進んでいくかのように見えました。町を混乱に陥れた張本人であるハマンが、優雅に王と酒をくみかわしている光景で 3 章は幕を閉じます(15)。しかし、一つだけ彼の思い通りにできなかったものがありました。それは、くじの目です(7)。これは、宗教的な理由でなされたものだと言われていますが、彼の引き当てた日は 11 ヶ月後でした。この猶予期間に、その後様々なドラマが起こったことを思う時に、神様の御業についてどんなことを学ぶことができますか？(箴 16:33 参照)

窮地の決断

<エステル記4：1～17>

はじめに

- ①あなたの信仰の決断が、他者に迷惑をかけてしまうような場面に直面したことがありますか？ その時、あなたは何を思い、どんな行動に出ましたか？
- ②一人ではどうしようもできない困難に出くわした時、あなたはどのようにしていますか？ その際、神様や信仰の家族に対して、どのような関わりを持っていますか？

聖書研究

- ①1 節には「モルデカイは、なされたすべてのことを知った」とあります。たしかに、彼は事の発端から全てを知る人物でした。彼個人のこだわりが(3:2, 3:4 参照)、民全体に大きな悲劇をもたらしたという事実直面した時、彼はどんな思いになったと思いますか？
- ②モルデカイは着物を引き裂き、荒布をまとい、灰をかぶり、ひどくわめき叫びました。これは、深い嘆き、落胆を表す行為でした(創 37:34, IIサム 1:11, イザ 3:24, ダニ 9:3 参照)。自分の近い人のこのような姿を見て、エステルはどのように応答しましたか？(4) また、ここに彼女のどんな気持ちが表れていると思いますか？
- ❖モルデカイはエステルが送った着物を受け取りませんでした(4)。彼はエステルの好意を理解できなかったわけではないでしょうし、彼女の状況もよくわかっていたことでしょう。それにもかかわらず、彼はなぜこのような態度に出たのでしょうか？ このことを通して、彼は何を伝えようとしたのだと思いますか？
- ③エステルの質問(5)に答えて、モルデカイは、発布された法令から(8)、そこに至るまでのハマンの計略まで(7)、事情を詳細に説明しました。その上で、彼はエステルに何を求めましたか？(8)
- ④モルデカイの切実な訴えに、エステルはどう返答をしましたか？(11) ここから、彼女の置かれた立場について、また彼女の心境について、どんなことがわかりますか？

⑤ためらうエステルに対して、モルデカイは言葉を重ねました(13-14)。このことを通して、彼は彼女に何を教えようとしたのでしょうか？

⑥16 節には、エステルからモルデカイに対する嘆願が記されています。これまで、他者の言いつけや勧めに従順に従ってきた彼女が(2:10, 2:15, 20 参照)、ここでははっきりと自分の願いを言葉にしたのです。この時、彼女のうちで、どんな思いが起こされていたのでしょうか？

まとめ

①モルデカイは、自分の手に負えない事態を引き起こしてしまいました。ハマンの提案が正当な理由を持つものではなかったにしろ、結果的に数万人にも及ぶ同胞の命を危険にさらしてしまうことになったのです。しかし、そんな絶望的な状況の中でも、彼は決して諦めませんでした。できうる限りの手を尽くしたのです。その行動力は、どんな信仰に支えられていたのでしょうか？(14)

②モルデカイの必死の説得を受けて、エステルも一つの決断をしました(16)。その応答を、モルデカイはどのように受け止めたと思いますか？

③モルデカイとエステルの歩みから、神様と共に生きること、神様の御前で人と共に生きることについて、どんなことを教えられますか？

わずかな進展 大きな布石
＜エステル記5：1～14＞

はじめに

- ①親しい家族や友人に頼み事をする時、あなたはどんなふうにお願ひしますか？
- ②学校の先生やアルバイト先の上司など、少し近寄りがたい相手に、何か相談を持ちかけなければいけない時、あなたはどんな気持ちになりますか？ また、どんな相談の仕方をしますか？

聖書研究

- ①ユダヤ人に断食を呼びかけてから(4:16 参照)三日目、エステルは王宮の内庭に立ちました(1)。当時、アハシュエロス王の王座の付近には、斧で武装した一団の男たちが控えていたと言われています。その王の前に、何の断りもなく出て行く時、エステルはどんな心境だったと思いますか？
- ②庭に立ったエステルは王の「好意」を受け、死を免れました(2)。彼女は、これまでも人生の重要な局面において、他者からの「好意」を受けてきましたが(2:15, 2:17 参照)、この時、この出来事をどのように受けとめたと思いますか？ 彼女の心情を言葉にしてみてください。
- ③ エステルを迎え入れた王は、彼女に「王国の半分でも、あなたにやれるのだが」と語りかけました(3)。これは、中東の文化の中で用いられた誇張表現だと考えられています。しかし、そうはいつでも、王は王なりに誠意を示すつもりだったことでしょう。それでは、その王はエステルの願い(4:8 参照)を実際に叶えることができる権限を持っていたのでしょうか？ (3:12, 8:8, ダニ 6:8, 6:12, 6:15 参照)
- ④アハシュエロス王は、気紛れな王であったようで、ある婦人にした約束から逃れようとしたことが、他の歴史書に記されているようです。そんな王に要求を伝えるために、エステルはどんな手順を踏みましたか？ (4)
- ⑤王のために設けた酒宴の席で、エステルに絶好のチャンスが訪れました(6)。この時に、エステルは何と答えましたか？ (7-8) また、どうしてこのような返答をしたのだと思いますか？

⑥二回目の酒宴は「王さまのため」(4)ではなく「私が設ける宴会」でした(8)。そこに、ハマンと共に招待された王は、このことをどのように受け止めたと思いますか？ またエステルは、何を意図して、この二回の酒宴の席を設けたのでしょうか？

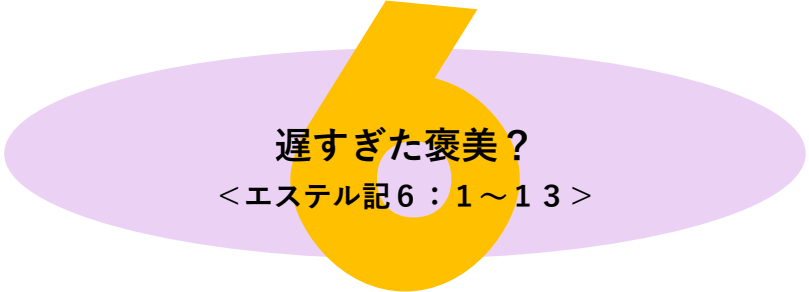
⑦エステルの招待を受けて、ハマンは上きげんになりました(9)。彼にとって、このことは自慢の種だったのでしょ(12)。しかし、彼には一つだけ不満の種がありました。滅びが定まっているモルデカイの態度です(9)。このことに、彼はどんな解決策を見出しましたか？

まとめ

①この 5 章において、事態は目覚ましく進展することはありませんでした。恐れのか、熟慮の末か、エステルは慎重に事を進めていきました。でも、そのような中でも、「内庭に入り、王のところに行く」という一つ目の難関はクリアすることが出来たのです。この一連の出来事から、あなたは神様についてどんなことを教えられますか？

②エステルとモルデカイにとっては、緊張感の高い日々が続いていましたが、この時ハマンの目には全てが順風満帆に見えました。このハマンの歩みを当時のユダヤ人たちは、どのように見つめていたと思いますか？

③箴言 16:1-5, 16:25 を読んでみてください。この御言葉とハマンの生涯を重ね合わす時に、どんなことを教えられますか？



遅すぎた褒美？

< エステル記 6：1～13 >

はじめに

- ①これまでに他者から期待した評価を得られなかったことはありますか？ その時、あなたはどんな気持ちになりましたか？
- ②逆に、思わぬタイミングで、周囲から認められたり、賞賛を受けたりしたら、どんな風に感じるでしょうか？

聖書研究

- ①ハマンがモルデカイを殺す準備をしていた夜(5:14 参照)、王にどんな出来事が起こりましたか？(1-3)
- ②当時、特別な貢献はすぐさま報いられるのが一般的でしたが、モルデカイの場合は彼の功績が年代記の書に記録されてから(2:23 参照)、数年が過ぎていました。死刑が確定した自分に、このタイミングで褒美が与えられるということを、モルデカイはどのように受け止めたと思いますか？
- ③王がモルデカイに与える「栄誉と昇進」について思案していた時、ハマンが王宮の外庭に入ってきました。彼は何のために、ここにやってきたのでしょうか？(4)
- ④王から相談を持ちかけられた時、ハマンは王の言葉をどのように解釈しましたか？(6)
- ⑤6:7-9 のハマンの言葉に注目してみてください。ここで語られている「王服」や「王冠」をつけた馬は、王位を象徴する要素でした。つまり、一時的であれ「王が栄誉を与えたいと思われる者」を、もう一人の王のような存在とすることを、彼は提案したのです。このような大それた進言から、ハマンのどのような思いが読み取れますか？

⑥そんなハマンに、王は何を命じ、どんな役目を与えましたか？(10-11)

⑦自らの役割を果たし終えた後、ハマンは嘆き、頭をおおい、急いで家に帰りました(12)。これは王妃エステル³の宴会に招かれるという光栄な経験をしてから(5:9, 5:12 参照)、1 日も経たない間の出来事でした。この時のハマンの心情を想像してみてください。

⑧ハマンが、一部始終を妻と友人たちに話した時、彼らは何と答えましたか？(13) 彼らは何を思って、このように言ったのでしょうか？ また、この言葉を、5:14 のものと比較する時に、彼らの心境についてどんなことがわかりますか？

まとめ

①かつてヨセフが監獄に閉じ込められていた時、彼に献酌官長の夢を解き明かす機会が与えられました(創 40:5-13 参照)。その際、彼は献酌官長に「あなたがしあわせになったときには、きっと私を思い出して下さい。私に恵みを施して下さい。」と乞いました(創 40:14 参照)。けれども、献酌官長はヨセフのことを思い出さず、彼のことを忘れてしまいました(創 40:23 参照)。しかし、それから二年の月日を経て、献酌官長はヨセフのことを思い出し、パロに彼を紹介しました(創 41:9-13)。そして、その出来事は、ヨセフとヨセフの家族にとって、大きなターニングポイントとなりました。この事実とモルデカイの経験したことの間には、ある種の共通点があります。このことから、神様の計画について、どんなことを考えさせられますか？

②伝道者の書 3:11 を開いてみてください。あなたがこの 6 章のモルデカイの立場に置かれたとしたら、この伝道者の書に述べられている真理を、どのように受け止めたと思いますか？

さまされた酔い
<エステル記 6：14～7：10>

はじめに

- ①安らぎを与えてくれる場所、慰めてくれる物と聞いて、あなたはどんなものを思い浮かべますか？
- ②あなたに困難が訪れる時、あなたはどんな人を頼りにしますか？
- ③もし、あなたが拠り所とする場所や人が、あなたに痛みをもたらすとしたら、あなたはどんな気持ちになるでしょうか？ また、その出来事はあなたの生き方にどんな影響を与えていると思いますか？

聖書研究

- ①6章で屈辱的な経験をしたハマンは、エステル宴会に(14)どんな心持ちで出席したと思いますか？
(5:12 参照)
- ②7:1 には「王とハマンは…酒をくみかわした」と記されています。これは、3:14 を思い出させる表現です。新しく発布された法令のためシュシャンの街が混乱に陥った時に、彼は優雅に美酒を味わっていました。そして、この7章でも、ハマンは同様の機会に恵まれました。王と酒をくみかわすことは、彼の栄華の象徴でした。では、この宴会の場で、この後、彼はどんな経験をしましたか？
- ③エステルは意を決して、自分の抱えている願い、悩み、苦しみについて語り始めました(3-4)。このようにして、自分の素性について明らかにすることは、彼女にとってどんなリスクがありましたか？(4:13 参照)
- ④エステルは「私も私の民族も、売られて」と語りましたが、ユダヤ人は誰から誰に売られようとしていたのでしょうか？(3:9 参照)

⑤エステル話を聞いた王は「そんなことをあえてしようとたくらんでいる者は、いったいだれか」と尋ね(5)、その計画の立案者であるハマンに対して怒りをあらわにしました(7)。しかし、このことに許可を与えたのは、一体誰だったのでしょうか？(3:10, 3:12 参照)

⑥エステルの生まれも、エステルの民族も知らなかった王とハマンは(2:20 参照)、エステルの告白をどんな思いで聞いたのでしょうか？ 彼らの心中を想像してみてください。

⑦ハマンは、自らが滅ぼそうとしたユダヤ人エステルに、いのち請いをしました(7)。この必死の懇願は、彼に何をもたらしましたか？(8-10)

まとめ

①ようやくハマンの悪巧みが、清算される時が来ました。彼には、劇的な結末が訪れたのです。しかし、身勝手な王には、特別な罰は加えられていません。彼は感情のままに振る舞っているように見えます。また、私たちの日常生活においては、ハマンのような人物が、涼しい顔で生きているのを見かけることも少なくありません。このように、不条理がまかり通っているように思える世界の中で、私たちは何に信頼し、どのように生きていけば良いのでしょうか？(詩篇 10:1-18 参照)

8 同胞との連帯

< エステル記 8 : 1 ~ 17 >

はじめに

- ① 苦悩や葛藤のうちにあるクリスチャンの話を耳にした時、あなたはどんなふうに応答していますか？ そのような知らせは、あなたの歩みにどんな変化をもたらしますか？
- ② とりなすこと、他者のために犠牲を払うことを、あなたは喜びと出来ますか？ また、それは何故ですか？

聖書研究

- ① 8:1 には「アハシュエロス王は王妃エステルに、…ハマンの家を与えた」とあります。「家」とは単に建物を意味するのではなく、ハマンの全財産を指しているのでしょうか。どの首長たちよりも、高い地位についていたハマン(3:1)の蓄えた富は、どれほどのものだったと思いますか？
- ② エステルとモルデカイとの関係を聞いた王は、モルデカイにエステルの財産を管理させ、加えて大きな権限を授けました(2)。こうして、エステルとモルデカイは、ある意味で自らの安全と立場を確保したのです。では、彼らはこの現状に満足していたと思いますか？ その理由と共に考えてみてください。
- ③ エステルは、王に法令の撤回を乞い願いました(3-6)。この時、彼女はどんな心境だったと思いますか？ 彼女のふるまいや言葉から、想像してみてください。
- ④ エステルの嘆願に対して、王は何と答えましたか？ (7-8) 王は、ハマンの書簡を取り消すことができたか？ (8b)
- ⑤ 8:8-12, 8:14 と 3:10, 3:12-15 を読み比べてください。これらの箇所類似点、相違点をあげてみてください。

⑥4:1においてモルデカイは、荒布をまとい、灰をかぶっていました。8:15では、その彼に何が授けられましたか？ また、これらのものは、何を象徴していたのでしょうか？(6:7-9 参照)

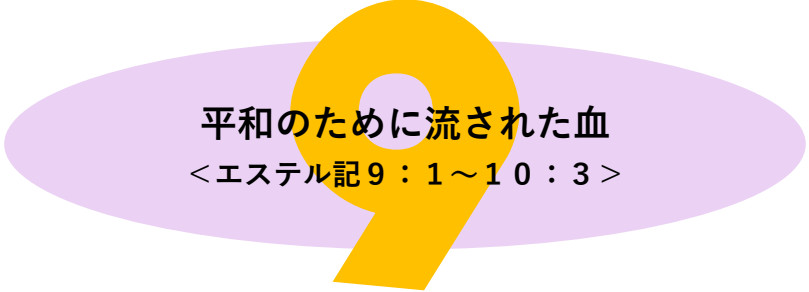
⑦ハマンの法令が届いた州では、ユダヤ人のうちに、大きな悲しみと断食と泣き声と嘆きとが起こりました(4:3)。では、モルデカイの昇進を目の当たりにし、新しい法令が届いた時に、ユダヤ人はそれをどのように受け止めましたか？(15-17)

まとめ

①3章では、モルデカイのこだわりがユダヤ人全体に、大きな災難をもたらしてしまいました(3:6 参照)。

この8章では、モルデカイの誠実とエステル信仰的決断が、ユダヤ人全体と彼らを取り巻く環境に、何をもたらしましたか？(15-17)

②モルデカイとエステルに対して、また彼らを通してなされた神様の御業から、神様について何を学ぶことができますか？ また、あなたはこの神様とどのように歩んでいきたいと思いますか？



平和のために流された血

<エステル記 9：1～10：3>

はじめに

- ①誰かの証を聞く時や聖書のストーリーを読む時に、あなたはそれを自分の人生とどのように結び付けていますか？

聖書研究

- ①ハマンがユダヤ人を滅ぼそうとした日、くじによって決められた「アダルの月の十三日」(3:7 参照)がやってきました。この日はユダヤ人にとって、どのような日となりましたか？(9:1, 9:18, 9:19, 9:22) ユダヤ人はこの日をどのような思いで迎えたと思いますか？
- ②自分たちに迫っていた脅威が取り除かれた時、ユダヤ人はこの日を誰とどのように過ごしましたか？(9:19, 9:22)
- ③モルデカイとエステルは、ユダヤ人全部に一つの命令を書き送りました(9:20-22, 9:26-28, 9:31-32)。それは、どんな内容でしたか？ また、何のために、このような規定を定めたのでしょうか？
- ④9:6, 9:12, 9:15, 9:16 には、ユダヤ人が殺害した「敵」の人数が記されています。こんなにも多くの人々が殺されたという事実を思う時に、あなたはどんな気持ちになりますか？
- ⑤ユダヤ人たちが集まり、団結した理由は、何でしたか？(8:11a, 9:16a) 略奪のためでしょうか？ それとも自衛のためでしたか？(9:10, 9:16)
- ⑥ユダヤ人が打ち殺したのは無防備の一般市民ではなく、武装した軍隊であったと考えられています。もし、彼らによる虐殺計画が予定通り行われていたとしたら、どれぐらいのユダヤ人が殺害されていたと思いますか？

⑦アダルの月に至るまでに、ユダヤ人に対する恐れと、モルデカイに対する恐れが、民のうちに浸透していました(9:2-4)。このことによって、人々のユダヤ人に対する態度は、どのように変わったと思いますか？ また、これが、「敵」の人数にどんな影響を及ぼしたのでしょうか？

⑧エステル記は、モルデカイの業績の記録で締めくくられています(10:3)。彼は為政者の一人として、どのように振る舞いましたか？ 彼の態度は、ハマンやアハシュエロスのもの(10:1)と比べる時に、どんなふうに評価をすることができますか？

まとめ

①創世記 12:3 を読んでみてください。エステル記の出来事は、この時アブラムに与えられた約束の成就の一つだったと考えられます。アブラムの子孫であったユダヤ人を呪ったハマンは滅ぼされ、ペルシャの全民族はユダヤ人モルデカイによって祝福されました(10:1)。この経験は、ユダヤ人にとって、また後の子孫にとって、どのような意味を持ったと思いますか？

②紆余曲折を経て、ユダヤ人には勝利と平和がもたらされました。しかし、その方法は血なまぐさいものでした。ところで、キリストは十字架を目前にして、勝利と平和(平安)を約束されました(ヨハ 16:33)。それは、どのようにしてもたらされましたか？(ロマ 8:37, II コリ 2:14, エペ 2:14-17, コロ 2:13-15, I ヨハ 5:4-5, 黙 12:10-11 参照)

③エステル記を通して、エステルやモルデカイを、静かにしかし確かに導いておられた神様は、あなたの人生にどのように関わってくださると思いますか？

迫害の地に遣わされた王妃

発行日：2018年2月

著 者：老松望(東北地区主事)

発行者：キリスト者学生会

101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル3F

03-3294-6916

office@kgkjapan.net

